

2020年1月4日～2020年1月10日

2020年1月15日

先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で上昇しました。また、カナダ5年国債利回りも上昇しました。

カナダの金利は、イランに対してトランプ米大統領がさらなる軍事行動は望まないとコメントしたため中東情勢の悪化懸念が後退し上昇しました。しかし、週後半は米金利の低下を背景に上昇幅を縮小しました。カナダ・ドルは、投資家のリスクセンチメントの改善から円安が進行したため、対円で上昇しました。

経済指標では住宅関連指標や雇用統計が発表になっています。住宅関連指標は軟調な結果となりましたが、雇用統計に関しては雇用者数の増減、失業率ともに市場予想よりも強い結果となりました。

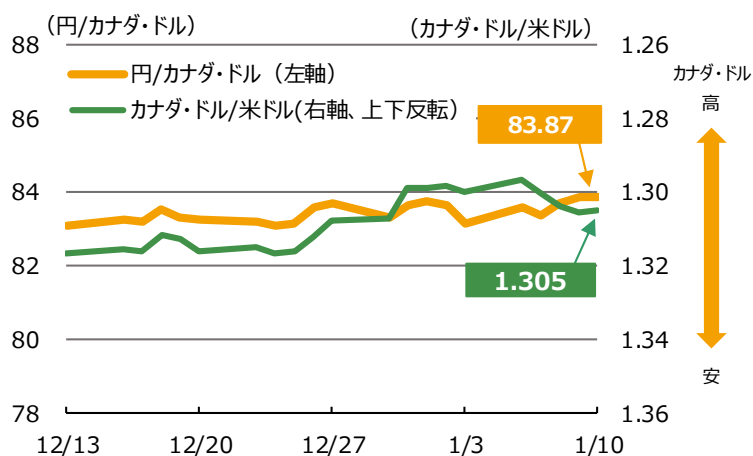
今週の見通し

今週、カナダでは特段重要な経済指標の発表はありません。米国では、CPI（消費者物価指数）、小売売上高の発表が予定されています。CPIはすでに発表されており、市場予想を下回る結果となりました。

USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）に関して、今週にも米上院で実施法案の採決を行う意向が示され、与野党ともに賛成していることから米上院でも可決される公算が高まっています。USMCAが発効されれば、カナダ経済を押し上げることが予想されるため、米国議会の動向に注目が集まります。

カナダ・ドル 為替推移

(2019年12月13日～2020年1月10日)

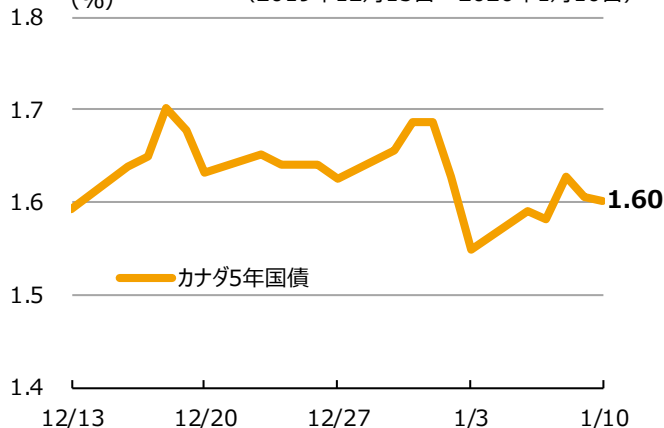


※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

カナダ 金利推移

(2019年12月13日～2020年1月10日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。